日立とNVIDIAが協業し、生成AIによるDXを加速

日立のミッションクリティカルなプロダクト・サービスにおけるリーダーシップと、

NVIDIAのAIプラットフォームのノウハウを融合

株式会社日立製作所(執行役社長兼CEO:小島啓二/以下、日立)は、本日、NVIDIA Corporation (CEO: Jensen Huang(ジェンスン・フアン)/以下、NVIDIA) と協業し、日立のエネルギー、モビリティ、コネクテッドシステムといったOT (制御・運用技術) 領域でのリーダーシップおよびデジタルソリューションと、NVIDIAの生成AIに関するノウハウを組み合わせることで、DXによる社会イノベーションを加速することを発表しました。

生成AIは、顧客体験を再定義し、組織の効率性を飛躍的に向上させるなど企業および消費者に多大なインパクトを与え、DXの新たな波をもたらしました。

今回の協業により、このような生成AIのケイパビリティをエネルギーやモビリティ、産業などOT領域へと拡大します。OT領域においてセンサーやデバイス、機器・設備から生成される膨大なデータを取り込み、生成AIを適用することで、パフォーマンスを効率化し、洞察(インサイト)を深め、これまでは不可能であったアクションを自動化することができるようになります。

日立はNVIDIAと連携しながら、エグゼクティブリーダーシップチームの選出およびCoE(Center of Excellence)の設立を行い、戦略的なマイルストーンに沿って、日立のOT領域でのドメインナレッジをNVIDIAの高度なAIソフトウェアやGPU技術と融合した業種向けソリューションを開発・展開します。

また、日立は、CUDA™、NVIDIA AI Enterprise、Omniverse™、ModulusなどのNVIDIAソフトウェアプラットフォームに関するエンジニアの育成強化に投資していきます。これらの取り組みにより、社会に価値を生み出す新たなイノベーションを起こしていきます。

生成AIは、タスク自動化や効率性の向上、製品やサービスの強化など組織のパフォーマンスを向上させるめざましい成果により、業界・業務を問わず幅広く適用が進み、現在、イノベーションや企業成長には欠かせない重要な技術となりました。

NVIDIAアクセラレーテッド コンピューティング プラットフォームは、大規模な言語モデルとクリエイティブな生成をサポートし、AIソフトウェアとシミュレーションにおける高度な技術力は、エネルギーから創薬、製造まで、あらゆる業界のイノベーションに貢献しています。

一方、全世界で約32万人の従業員を擁する日立は、IT、OT、プロダクトを強みとし、エネルギー、モビリティ、製造業など幅広い分野に先進的なソリューションを提供するリーディングカンパニーです。2023年5月にGenerative AIセンターを設立し、生成AIの安全・有効な社内外での利活用を推進してきました。

生成AIを活用した数多くのユースケースで効率性と生産性の向上を推進し、国内外で 100 件以上のプロジェクトを獲得し、課題解決やイノベーションの創出を支援しています。さらに、AIトランスフォーメーションを加速するために、NVIDIAアクセラレーテッドコンピューティングプラットフォーム上で動作する環境を構築・導入しました。今後、日立のドメインナレッジやアプリケーション開発の強みを取り入れた生成AI共通基盤として段階的に強化していきます。

日立の執行役副社長兼デジタルシステム＆サービス統括本部長の德永俊昭は、「日立は創業以来、『優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する』という企業理念のもと、お客さまや社会が抱える課題の解決に取り組んできました。今回、NVIDIAとの先進的なコラボレーションを通じて、日立がミッションクリティカルな分野で培ってきた深いドメインナレッジとNVIDIAの生成AIソリューション群を組み合わせることで、複雑な現実世界の課題を解決し、画期的な成果をもたらす社会イノベーションを加速することができると期待しています。」と述べています。また、NVIDIA の Worldwide Field OperationsでExecutive Vice PresidentであるJay Puri(ジェイプリ)氏は、「企業は、生産性、効率性、自動化のニーズに対応するために、生成AIの最新かつベストなツールを求めています。日立とNVIDIAの技術を組み合わせることで、企業は、インダストリアリゼーション(産業構造の変化)の限界を越え、DXの次の波へと進んでいくことができます。」と述べています。